

緊急消防援助隊とは

緊急消防援助隊は、平成7年（1995年）兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の教訓を踏まえ、大規模災害等において被災した都道府県内の消防力では対応が困難な場合に、国家的観点から人命救助活動等を効果的かつ迅速に実施し得るよう、全国の消防機関相互による援助体制を構築するため、平成7年6月に創設されました。平成15年6月に消防組織法が改正され、平成16年4月から緊急消防援助隊が法制化されるとともに、大規模・特殊災害発生時の消防庁長官の指示権が創設されました。

総務大臣が「緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画」を策定、それに基づき、消防庁長官が部隊を登録しています。

—実災害での活動実績から、さらなる迅速・的確な広域対応体制の拡充の必要性を認識—

平成16年7月 福井豪雨



平成17年JR西日本福知山線列車事故

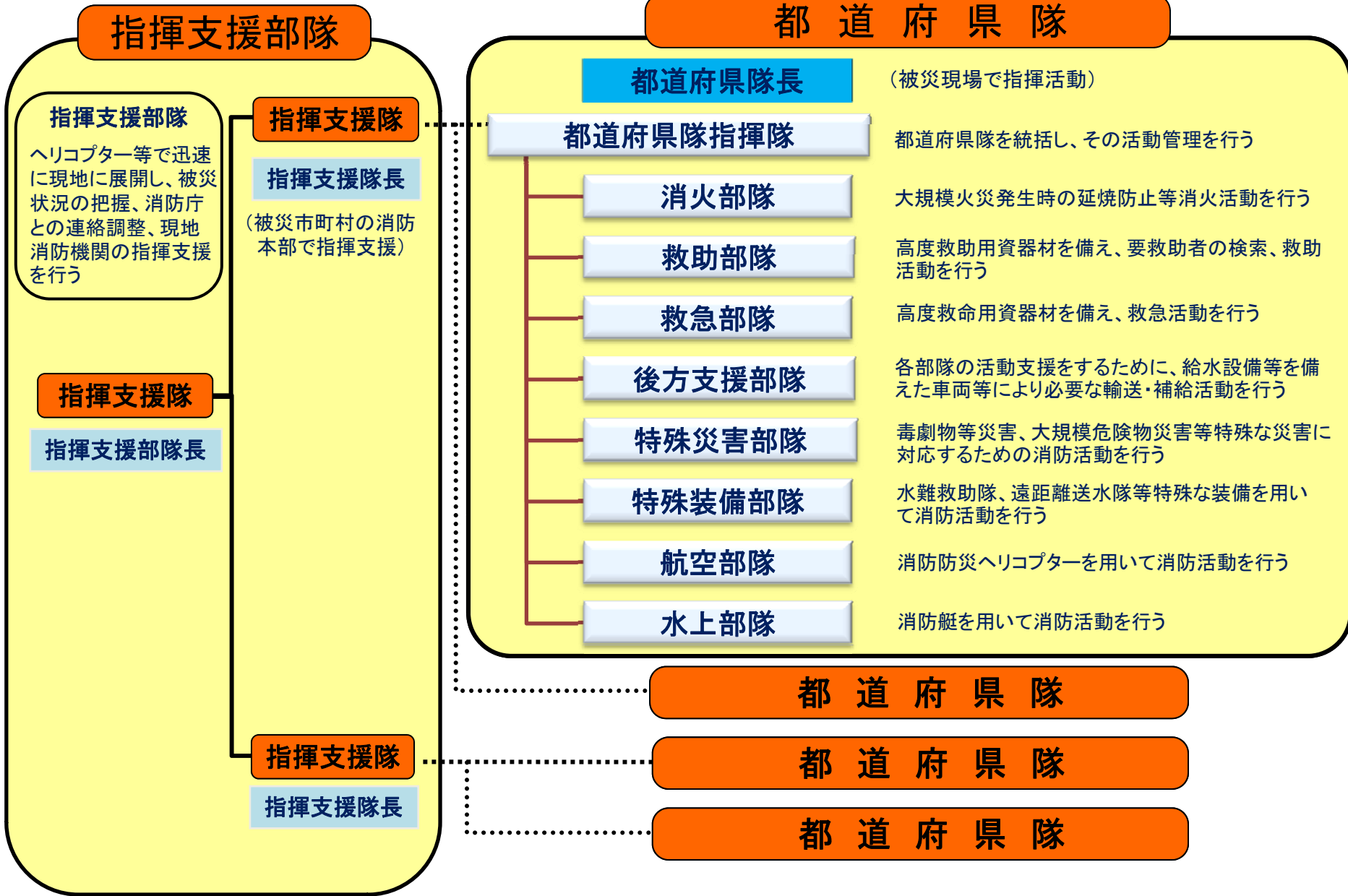


平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震



※ 過去の出動実績⇒23災害（うち法制化以降は13災害に出動）

緊急消防援助隊の部隊編成



緊急消防援助隊の充実強化

安全は地域を越えて守る

- 広域緊急体制の充実強化を図るため法定化された緊急消防援助隊を、的確かつ迅速に出動可能とし、被災地の消防の応援を行う体制を構築するため、緊急消防援助隊の編成・施設の整備を増強充実していきます。

登録部隊の概要

- 平成25年度末までに、4,500隊規模に増強を図ることを目標
(平成21年3月2日「基本計画」を変更)

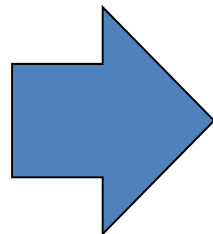
【平成22年4月1日現在登録部隊数】

【平成25年度末 4,500隊規模の目標登録部隊数】

↓
4,264隊

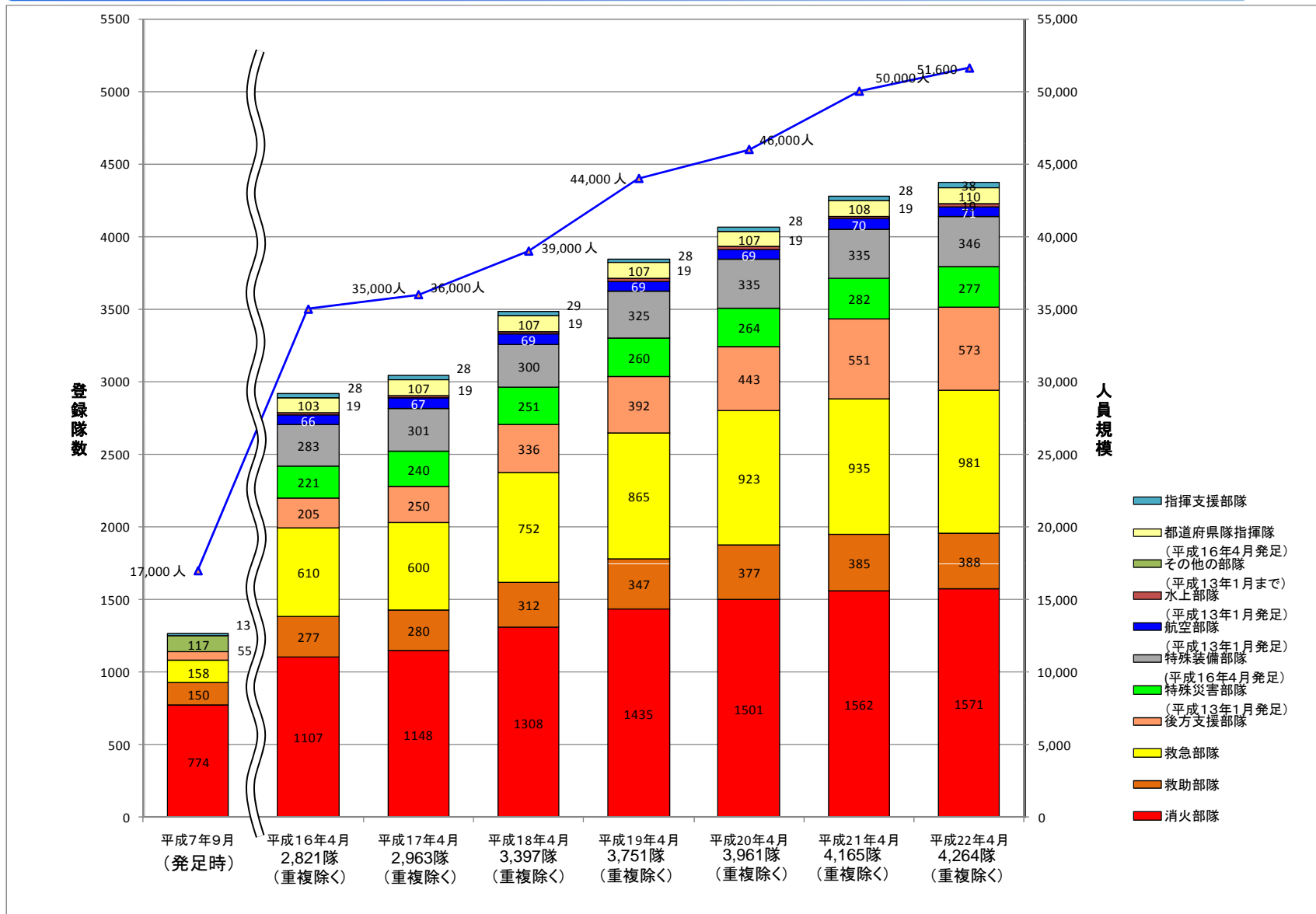
↓
概ね4,500隊

<主な部隊>	
消火部隊	1,571隊
救助部隊	388隊
救急部隊	981隊
後方支援部隊	573隊



<主な部隊>	
消火部隊	1,700隊
救助部隊	430隊
救急部隊	1,000隊
後方支援部隊	630隊

緊急消防援助隊登録部隊の推移



緊急消防援助隊の出動スキーム

()の条項は全て消防組織法



(※) 都道府県知事の要請を受けた場合(第44条第1項)と、緊急の場合で都道府県知事の要請を待つかまがない場合(第44条第2項)がある。

緊急消防援助隊の出動事例

【平成7年6月緊急消防援助隊創設】

- 1 蒲原沢土石流災害（平成8年12月6日）
- 2 岩手県内陸北部を震源とする地震（平成10年9月3日）震度6弱
- 3 有珠山噴火災害（平成12年3月31日）
- 4 平成12年(2000年)鳥取県西部地震（平成12年10月6日）震度6強
- 5 平成13年(2001年)芸予地震（平成13年3月24日）震度6弱
- 6 宮城県北部を震源とする地震（平成15年7月26日）震度6強、6弱
- 7 三重県ごみ固形燃料発電所火災（平成15年8月14日）
- 8 栃木県黒磯市ブリヂストン栃木工場火災（平成15年9月8日）
- 9 平成15年(2003年)十勝沖地震（平成15年9月26日）震度6弱
- 10 出光興産北海道製油所原油貯蔵タンク火災（平成15年9月28日）

【平成16年4月1日法制化以降】

- 11 平成16年7月新潟・福島豪雨（平成16年7月13日）
- 12 平成16年7月福井豪雨（平成16年7月18日）
- 13 平成16年台風第23号兵庫県豊岡市水害（平成16年10月21日）
- 14 平成16年(2004年)新潟県中越地震（平成16年10月23日）震度7
- 15 福岡県西方沖を震源とする地震（平成17年3月20日）震度6弱
- 16 平成17年JR西日本福知山線列車事故（平成17年4月25日）
- 17 奈良県吉野郡上北山村土砂崩れ車両埋没事故（平成19年1月30日）
- 18 平成19年(2007年)能登半島地震（平成19年3月25日）震度6強
- 19 三重県中部を震源とする地震（平成19年4月15日）震度5強
- 20 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震（平成19年7月16日）震度6強
- 21 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震（平成20年6月14日）震度6強
- 22 岩手県沿岸北部を震源とする地震（平成20年7月24日）震度6弱
- 23 駿河湾を震源とする地震（平成21年8月11日）震度6弱